令和３年度第２回（第 11 期第１回）さいたま市社会教育委員会議　会議録

○開催日時：令和３年 11 月 15 日（月）10 時 00 分～11 時 30 分
○開催場所：第二別館１階　第１会議室
○出席者名：【委　員】若原　幸範議長、加藤　美幸副議長、石田　玲子委員、
井上　久雄委員、桑原　静委員、小森谷　由紀江委員、
佐藤　理恵委員、関根　公一委員、髙山　俊介委員、
林　弘樹委員、溝口　景子委員、村山　和弘委員
【事務局】（生涯学習部）千葉　裕
（生涯学習振興課）山本　高弘、竹居　秀子、石田　悦子
久松　丈記、清宮　雅貴、髙野　未紗
○欠席者名：内田　崇史委員、塚元　夢野委員、亘理　史子委員
○公開・非公開の別：公開
○傍聴人の数：なし

１　開会

２　委嘱状交付

３　教育長挨拶

４　自己紹介

５　議長・副議長選出
議長に若原委員の推薦が委員からあり、承認された。
副議長については事務局案として加藤委員を推薦し、承認された。

６　議事
⑴　報告事項
①　さいたま市社会教育委員会議の概要について
第 11 期さいたま市社会教育委員会議の概要について、資料１に基づき説明した。

②　前回会議について
令和３年度第１回会議の概要について、会議録に基づき説明した。

③　さいたま市生涯学習ビジョンについて
さいたま市生涯学習ビジョンの概要について、資料２に基づき説明した。
【質疑応答・意見】
＜桑原静委員＞
生涯学習ビジョンの冊子はどこに行けば手に入るのか。

＜事務局＞
　生涯学習総合センター、公民館、コミュニティセンターなど、主に生涯学習の現場で配布している。

④　生涯学習推進計画関連事業調査について
　第二次生涯学習推進計画関連事業の調査結果について、資料３に基づき説明した。
【質疑応答・意見】
＜林委員＞
　１点目として第 10 期社会教育委員会議でも話題になったが、昨年はコロナ禍で多くの事業が実施できなかった一方で、生涯学習の重要性はますます向上していると感じている。非常事態であっても生涯学習の歩みを止めないことこそが、行政が主体となって生涯学習を推進する意義とも繋がる。
　教育委員会でも様々な模索がされた中で、事業のオンライン化も手段の一つではあるが、それだけではなく生涯学習の歩みを止めない、事業を止めないような対応を考えていかなければならないと思っている。
　２点目として、教育委員会だけが主体となって学びのサポートを推進していくことには限界がある。そこで企業・大学・市民団体等との公民連携のネットワークを生かすことはもちろん必要だが、さいたま市の中でも生涯学習に関しては教育委員会と市長部局に跨っている部分が半分近くある。生涯学習を推進するためには、部局を跨った連携をしていくことがキーとなると考えるので、そのスタンスを伺いたい。

＜事務局＞
　コロナ禍では施設の休館などもあり、初めての経験で各施設でも対応に苦慮した。そのような中でｅ公民館などのデジタルコンテンツを、まずは手近にできることとして配信した。ご指摘のとおり、オンラインのみが対応手段ではないが、まずはできることとして実施したものである。生涯学習振興課としても Zoom 配信用のパソコンを導入するなど、対応を進めている。
　今回の報告は第２次生涯学習推進計画に基づく調査のため、コロナ禍への対応という視点での報告としては十分ではないが、それについては、今後総括のような形でまとめたいと考えている。
　２点目の行政内の連携に関しては、我々としても大きな課題として認識しているところである。資料３のとおり、関連事業も半分は市長部局で実施されているという実態もある。現在、生涯学習推進検討会議という市長部局の課長級職員も含めた会議体を持っており、市長部局とより一層の連携を図っていきたい。

＜議長＞
　今後、同じような事態が到来したときのため、あるいはこの経験を踏まえて日常の生涯学習をバージョンアップしていくために、市にはしっかりした検証を期待したい。

＜村山委員＞
　市には我々のスポーツ協会を含め10数個の外郭団体もある。ぜひ、今後調査する機会があれば、外郭団体も含めて検証をしていただきたい。

＜事務局＞
　様々な団体とのネットワークが生涯学習のネットワークにつながると認識している。ご指摘の点についても配慮していきたい。

＜小森谷委員＞
　e公民館については、コンテンツによって配信されている講座のクオリティもまちまちであるので、今後コンテンツの質の充実も図っていっていただきたい。

＜事務局＞
　オンラインコンテンツの普及によって、講座等の企画を後日視聴するという機会も増えてきており、良い面も悪い面も含めて、いろいろな面が見えてきていると認識している。これまでになかった厳しい目で評価を受ける可能性を認識しながら、事業を実施していきたい。

＜林委員＞
　学びを止めないために始まった取組だが、実施するとそれだけではない別の面が見えてきた。さいたま市は60館の公民館と25館の図書館を擁していて、これは大きな武器となる。それらが作ったコンテンツをオンライン上に一挙に載せたことで、規模の威力のようなものが発揮された。
　その一方で、各館が独自にたくさんのことをやっているのに、それぞれの地区で事業が完結してしまっていることも分かってきた。それは公民館活動に限らず、図書館資料という点でも、各館で完結して特色が見えてこないという部分がある。
　今回、オンラインコンテンツの存在が一つの切り口となり、市全体として生涯学習関連施設の価値を積み上げていき、それが全体のクオリティの向上にもつながるような形を期待したい。それがテレビやYouTubeとは違う、地域の大切な情報を伝えるコンテンツとなっていく起点となると、非常に有意義だと思う。

⑵　協議事項

①　第11期社会教育委員会議における審議内容について

　第11期さいたま市社会教育委員会議において審議する内容について、資料４を基に事務局案を提示した。
　第２回以降の会議で委員には意見を求め、審議内容を決定していくことで委員の承認を得た
【質疑応答・意見】
＜桑原委員＞
　シニアユニバーシティ等の卒業生が独自に勉強会を開いたりしているが、人材バン

クの存在を知らないために講師不足であるという声がある。生涯学習ガイドブックと生涯学習ビジョンを彼らに配布するなど、制度の周知から進めることもできるので次回の委員会までにもそういうところから始められたらよいと感じている。

⑶　その他

さいたま市生涯学習フェスティバルについて、資料５を基に実施報告を行った。また、令和３年 10 月に発行した生涯学習ガイドブックについて委員に紹介した。

７　閉会

以上